

# 隨想



堀尾貞治展より<ギャラリーキタノサーカスにて>

時ならぬ異常までの異人館ブームがそれからの北野町を襲つた。深く静かに進行するはずであつた北野町の変貌のプログラムに、それは多少とも痛しかゆしの侧面をもつてゐた。ギャラリーにやつて來た人々は、引きもきらない団体客の行進を窓越しに眺めて一様にアツケにとられている風だつた。

しばらくそんな毎日が続いた。苦笑にも疲れたころテレビも終り、さすがの団体さんも數少なくなつたが、夏のこの暑い最なかにも三々五々の物見客だけは跡を断たず、そのあいだ新しい店もできた

りして二、三年前には見られなかつた賑わいがどうやら北野町の風景として定着したようである。

これらの新しい店は、いずれもが時代の先端をゆくインテリアはかくやとばかり大変頑張つておられる。昨今のブームに便乗した安直な商法の見え透かないのが何よりで、眼先の欲得よりもむしろ洗練されて洒落た店を出すことへのひたむきな雅気が読みとれて好ましい。北野町というスタイルへの自然な節度と配慮が彼らをそうさせているわけだが、結局それはながい眼でみれば賢明なことに思われる。ただ、これからはいつそ

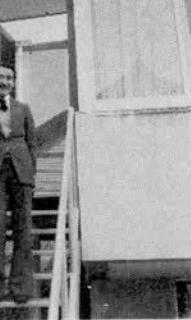
う、この界隈に住んでいる人々に、それも手近かに浸透する商品の品ぞろえや食事ならメニューの工夫ところが降つて湧いたようなN.H.K.の「風見鶏」の放映があり、

## 詩的遊歩道 北野町の雅氣

福野 輝郎

△ギャラリーキタノサーカス▽

北野町もこの二、三年で随分と變つた。わたし自身ここにやつて來て三年に充たないのだからあまりえらそうともいえないが、そのころでさえ、できたばかりのキングスコートさんがポツンと所なげにあるだけで、あたりはまだ静かなものであつた。潇洒なレ



H.K.の「風見鶏」の放映があり、

があつてほしい。実があつて安い  
ということはどんな人間にも魅力  
でさるにそれが洗練されていれば  
鬼に金棒だ。月に一度や二度の気  
取つた顧客を相手にしているのな  
らともかく、そうでないならまず  
北野町の住人の日常と密着させて  
いってほしい。

これからも外からやつて来る人  
人が真に魅せられるのは、他でも  
ないそうした北野町のそれ自身が  
生活として息づいている新しいソ  
フィスケーションすなわち洗練度  
である。北野町の人々がまずその  
文化体系を生きねばならないと思  
う。

## 親子で 二人三脚の旅

吉岡 潔  
△ヨシオカ社長▽



商談中の頼もしい二代目吉岡達彦さん(右)

スイス、イタリーへと初めて息  
子と一緒に商用の旅に出た。

慢料理に舌づみをうつた次第で  
イタリーでは取引先の社長がわ  
ざわざホテルまで出迎えに来てく  
れ、車で会社へ。事業家ともなる  
と暢気なイタリー人ものんびりは  
していません。社員の先頭に立つ  
て働く姿は日本人と同様のようで  
す。時間を十分にかけないとよい  
仕事ができないのでと、夜の十時  
まで仕事…ただし途中二時間の食  
事休みがあるのは、やはりお国柄  
といいましょうか?

スイスでもイタリーでも街や空  
港、駅などで時間に余裕のある時  
などふつと姿が見えなくなる。あれ  
れつと思つて探してみると若い外  
人と話し合っていたり、店でも商  
品について熱心に質問したりして  
いて、少しの時間でも楽しみなが  
ら有効に使つてゐるのを見ると若  
さをつくづく感じたものです。

商用先でのことです。

相手の若い社員と論争をやつて  
いる様に見えたのでそつと見てい  
ると、どちらも譲らずぶつかり合  
っている様子です。やがて妥協点  
を見つけだすまで時間をかけてや  
つてゐる…日本人には大変なこ  
とですが外国人には日常茶飯事で  
す。結局息子の方にやや軍配が上  
がつたのですが、話し合いがつ  
いたあとは気持よく談笑して、滞在  
中は三度も食事に招待されお国自



吉岡潔さん

今、若い人達の良さは推測で事  
を進めず、ちゃんと見極めて確か  
な答を出すということ。自分の子  
供だからと親バカのように思われ  
るかもしれませんのが次代の若者を  
頼もしく見直した次第です。

# 花とレーニエ大公

成瀬 香梅

△知香流家元



グレース大公妃と成瀬香梅（右から3番目）・香豊さん

交流を深める「'78ヨーロッパ花の文化親善使節団」（神戸新聞創刊八十周年、ディリースポート創刊三十周年記念）一行三十一名とともに五月九日より十七日間アテネ、モナコ、ニース、カンヌ、アムステルダムその他ロンドン、パリの各地を訪問してきました。

公式行事でまず最初の訪問地モナコでは、「第十一回国際花のフェスティバル」に参加。テレビ放送に出演したときには、紺碧海岸のイメージをサンゴ、ペイナップル、ストレッチャなどの花材に託して海底で花が咲いたような感じ

で大作を生けて披露しました。何といっても印象に残っているのはコンクールにモナコ国王レーニエ大公がおしのびで自ら出品されたこと……。帽子やくず鉄などを使って海岸に打ち寄せられた感じの男性的な作品、それとピーマン、ナス、キュウリ、セロリなどいろいろな野菜を山のように積み上げた作品で、こちらの方はまるで八百屋さんの店先のよう。秘書の方に大公はヒソヒソとお話にならながら盛り上げていかれ、ちょうど上がりがったころ、グレース大公妃がこれまでおしのびでお越しになり、熱心にご覧になつてゐるのです。このとき、とても愉快なことがありました。レーニエ大公のお隣りで作品を作つた男性が台上に残つた自分のゴミを大公とはツユ知らずにフーフーと

そのゴミを大公の作品の方へ吹いているのです。大公はご自分の次の作品製作に夢中でまったくお気づきにならず……。そのようすを大公妃がご覧になつてクスクス。本当にほほえましい光景で、国王ご夫妻のお人柄を感じました。だニースでは、ちょうど五月祭のときで町はとても賑やか。野外で四千人位の人々の前で展示花を行ましたが、このときはぶつつけ

本番の発想で、花市で買ったヤシ、フランスと日本の扇子を使い、折り紙で折ったキリンを二ひき脇に置いて四、五メートルほどの大作をいました。カンカン照りのため、暑くて暑くて終るとたまらず木かげに逃げ込みました。カンヌでは、有名な国際映画祭にぶつかって、新聞やボスターのおかげでホールは超満員。

最後の公式訪問地アムステルダムでは嬉しいことにチューリップは現産地だけに色がとても美しくそのうえ安くて一ダースが二百五十四円位。デモンストレーションでは御所車、オランダの風車、人形などを用いたところ、大変喜ばれました。やはりその国の手近なものを素材に使うということがとても喜ばれ、どこの訪問地においても同様でした。

このたびの訪問で感じましたのは、パリでもロンドンでも五年前と比べ人々の生活が質素に思えたこと。（このことはそれだけ日本人がぜいたくなつた証拠かも知れませんが）それから、お花についてはヨーロッパの人々はデッサンをして組み立てる作品はとても巧みですが、そのときの情緒に合わせて繊細な感覚で作るのは難しいようです。やはりその点は日本人のいけばなに対する天賦の方が適しているのかかもしれませんね。

□ ある集いその足あと

## 甲南の會

坂野 清夫 （甲南園理事）

甲南幼稚園と甲南学園小、中

（男女）、高等学校の同窓生と関係者の集いで、全く何んとなく食べ歩き会が始まり、メンバーは最高七三才で六十才の還歴をすぎた二十人（平均年令六七才）である。この会は規則らしいものがない常識と友情で万事を処理して続けられている。

毎回の集りは平均十五、六名で昔話しや、好き勝手な事をしゃべりまくり、一夕を過すのが楽しいのでいつも次の会合が待たれる。旧友の噂とか雑談にふけつて時を忘れさせられ、阪神間特有の雰囲気がただようのである。

回を重ねること八八回になり、第一回は昭和四三年十一月で、十

年間に同じ店には二度は行かないで神戸の有名店を食べ歩き、時々京都大阪にも出掛ける。この十年間に店をしめたのが数店はある。

会費は安くして酒代は酒をのむ男性から別勘定で割勘で徴集する七三才で最年長者の進藤次郎社長は料理の腕自慢で二回も小学校と女学校で会員においしい手料理を作ってくれたが、この会は外食

だけの食べ歩きだけではない、と我々の自慢である。例えば九州仕込みの水だきは朝から何時間もかけてスープを作る本式のもので、一流的料理店にも負けないおいしさであった。この他に会員の手料理は何回かあつた。

女性達は長い年月を家庭で毎日の料理にウンザリらしく、会合の日には料理から逃れられるので女性の出席は非常によい。



今回は宮崎さんの結婚祝いの乾杯！（平生記念館で）

男性の社長達は多忙で当然欠席が多くなり余り欠席が続くと罰金と称して、特別上等のおいしい料理屋で会費以上の出費は負担してもらおう事にしている。上等の料理屋に行けるのもこんな時であり、一同は大喜びで出掛けれる。

夫婦が隣合せに坐ると一万円の罰金をとられる事になつていて、全く童心に返り食べたりしゃべ

つたりの楽しい会合である。会が少し遠のくと、まだかまだかの催促である。

婦人の方が有勢で賑かであり、現代の日本及び甲南の女性優位のシンボルの様な会合である。会員は子供時代からの呼び名でお互いに呼び合い、秃頭、白髪の社長も何々夫人も、何々チャンと呼ばれているからここでは子供の時と同じ言葉使いで後輩の学長も校長さんも子供扱いされる怖れがある。

ある店で女中さんに、何の集まりか当てて御覧と言つたら「法事の御帰りですか」と言われて我々は若い心算りでも人には老人の会合である事が思ひ知らされた。然し連中は自分では若い心持で集まつて居りこの時ばかりは心と身体は別らしい。

本来、心と頭脳細胞は老化しないのが原則であるとするならば、我々に若さと楽しさが確かに活々として残つてゐる。

この会に出ていると「日本人も少しはオトナになつたのかな」と思つてゐる様子は日本では珍しい阪神文化であり、神戸らしい気持の良い氣風があると考へる。

この会のために読者から神戸を中心にして良い店があつたらお教え願いたいものである。

# 刀劍 古美術



縁頭 桜花散

目貫 獅子の図

鉄 銀地に赤心の象嵌あり

鞘 若狭塗鯉口、小尻に桜花散の金具付

¥ 5,500,000

刀 柄つき

銘 常州水戸住直江祐共造之安政六年二月吉日

特別貴重刀剣認定書付

刀渡 86.0cm (2尺8寸4分)

白鞘 故寒山先生の直刃湾れ出来見事なり雄刀愛すべしと御鞘書あり

旧所持 海軍中将東郷吉太郎閣下書護國剣とあり同刀工(祐共)

の作刀で水戸市の文化財に指定のものあり

刀 剣 古 美 術

鑑定 買入 刀剣 研磨 その他工作一ヵ月仕上是非ご用命下さい。  
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081



鍛えぬかれたしにせの味…

# ゴーフル



ほろほろと軽い2枚の洋風  
せんべいに、バニラ、スト  
ロベリー、チョコレートの  
3色のクリームをはさんだ  
爽やかな風味——  
お子さまからお年寄りまで  
巾広く親しまれている  
周月堂の代表銘菓です。

神戸 風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎ (078) 321-5555

ゴーフル

# 『天秤』の連中

△下▽

足立 卷一 △詩人▽

いまでは『天秤』の同人のほとんどが、何がし  
かの著書を持っている。詩集が多いけれど、散文  
の著作も少なくない。いずれにしてもそれはた  
いてい『天秤』に発表された作品だ。それが補正  
され、練り上げられ、一冊の単行本にまとめられ、  
社会の共有財産になってゆくのを見るのは、うれ  
しいものである。苦労して『天秤』という冊子を  
つづけた意味があつたというのだ。

最近でも、三冊の仲間の本が出る。

その一つは、宮崎修二郎の『柳田国男その原  
郷』である。八月、朝日新聞社の『朝日選書』の  
一冊として刊行される。

宮崎が柳田国男にかかわったのはかなり早い。  
そして昭和三十三年、神戸新聞が創刊六十周年記  
念事業の一として柳田国男の『故郷七十年』を  
連載した時、宮崎はその担当者だった。だから、  
それ以来としても満二十年ということになる。世  
に柳田国男についての研究や論考は多い。しかし、  
神崎郡福崎町の生地と柳田民俗学との関係を  
深く追究したものはほとんどなかつたといつてい  
い。宮崎は生地を『原郷』と呼んで、この問題に  
取り組んできたのである。その探究の一端が『天  
秤』に発表されたのは、五十年十二月の第43号で  
あつた。写真を中心としたもので、五十二ページ

におよんだ。柳田が育った環境を丹念に撮影した  
のだが、すでに失われたところも多く、柳田民俗  
学に関心ある人たちに喜ばれ、称賛された。こん  
どの『朝日選書』は、それを基礎資料としながら柳  
田の原郷を克明に記録した本になるはずである。  
ところで、この写真を『天秤』に一挙掲載する  
については、宮崎はもとより同人一同いささか頭  
を痛めた。写真製版と印刷とに相当金がかかるか  
らだ。そのとき、援助してくれたのは田辺聖子だ  
った。ついでにいえば、田辺はもちろん『天秤』  
の同人ではないけれど、すでに一度寄稿したこと  
がある。尼崎に住む同人の詩人高島健一が急死し  
その追悼号を出したときだつた。田辺は高島と交  
際があり、通夜、葬式にも列してくれたが、追悼  
文も寄せてくれたのだ。短い文章ではあつたが、  
ことばが生動し、高島の一面を的確にとらえ、追  
悼記中抜群に感銘深かつた。三十九年のことで、  
田辺聖子は芥川賞を受ける直前に書いたものだつ  
た。その田辺のように、同人ではないけれども  
『天秤』を応援してくださる人は多いのである。  
さて、宮崎の本と同じころ、出るはずなのが桑  
島玄二の『若き詩人の手記——空挺隊員竹内浩三の  
筑波日記』である。これは理論社から刊行され  
る。桑島はさきに『天秤』に連載した『戦中詩人

論」を一本にまとめて『兵士の詩』と題し、つづいて自伝的児童文学『白鳥さん』をいれも理論社から出したがこんどの本も『筑波日記』と題して『天秤』に連載された。

竹内浩三という戦没兵が書き残した手記を校訂論考した労作である。竹内は伊勢市出身、日本大学で伊丹万作の教えを受けていた在学中、学徒出陣によって落合參部隊に召集され、筑波山麓で猛訓練を受けたのち、フィリピン戦線に送られて消息を絶つた。『筑波日記』は訓練中に上官の目を盗んで手帳に書きこまれ、フィリピンへ派遣される直前、姉に託されて残つたのである。最後の学徒兵だった桑島は、ずっと戦争における詩の問題ばかりを論述してきた。前著『兵士の詩』もそうであったし、『白鳥さん』も戦争と子どもとが主題になり、わたしはこれを「近來の戦争文学の傑作ではないか」と、あるところで評したことがあ



某所の飲み屋でー1番手前の右側が桑島玄二、左側が宮崎修二郎、宮崎の向って、左から足立巻一、伊田耕三、奥村隼人、中西勝、半田透

り、いまもその評価に変化はない。こうした一連の著作のなかで『若き詩人の手記—空挺隊員竹内浩三の筑波日記』はその頂点をなすものであろう。その出版は他人事ならずうれしい。

宮崎、桑島の本と相前後して、伊田耕三の詩集『JYSEINNEとわたしの歌』が出る。伊田は『天秤』の発行名義人でもある。

伊田とは少年のころからつきあいだ。家は新開地にあり、「バクメツ」という殺虫剤の発売元だった。『県商』を卒業して三菱商事にはいり、上海に派遣され、そこで恋愛結婚したのが、コノエ夫人であるが、夫人は四十七年ガンのために死去された。それ以後の伊田の悲嘆ぶりは物凄いといふばかりはない。酔って語れば亡妻のことばかりだ。そうした思いをこめたのが詩集『梅』であるが、題名も夫人が梅が大好きだったことによる。そして真情につらぬかれた詩集『梅』は、詩に关心のない人たちの心をも打つたが、伊田はなおそれでもあきたらず、妻に捧げる詩を書きつづけた。JYSEINNEとは夫人のことである。この詩集は九月に出る。

それにつけても、つれあいに先立たれず、逃げられず、子どもに死ななければ、人生もまああとせねばなるまいと思う。それから、友情も女と金とがからめばこわれるということも、『天秤』のつきあいで銘記したことである。

□神戸商船大学と神戸 △終▽

# 神戸の地に育くまれ

南正巳

△神戸商船大学学長▽

終戦直前の昭和二〇年五月と八月に隣接の川西航空機工場と共に被爆し、深江の教育施設は廃墟と化した。戦後、この焼土の中に運輸省所管の海技専門学院として残った職員・学生は極めてわずかであったが、のちに大学の二代学長になった小谷信市名誉教授の「祖国の復興は海運の復興から」の指導のもと、瓦礫の中からまず機械工場を堀り出し、全員が汗と油にまみれて整備して、以後全く手作りの教材および教室が生れてきたのであった。この物凄い復興の意気込みは当時人の心を打たずにはいなかつた。

昭和二十四年。後・初代学長となる大羽真治学院長のもとに、職員・卒業生が一体となって、再教育機関を併せ持つ商船大学を設立すべく決意し、着実な運動が開始された。旧教授であり後に国務大臣・大阪府知事を務めた左藤義詮代議士が国会において口火を切つて神戸商船大学の設立を政府に迫つたのである。当時は東京、京都など特別な府県を除き一県一国立大学の枠があり、有名な吉田ワンマン首相の時代で、日本の国力はなお貧弱であり、加えて運輸省が大学にして文部省に移管することに反対している状況下で、運動は悲惨なものであった。二十六年二月岸田幸雄兵庫県知事、原口忠次郎神戸市長、細見達蔵県会議長、大崎一郎市会議長、宮崎彦一郎神戸商工会議所会頭が中心となり、地元県市の人々はもちらん海運関係の全国団体を網羅した神戸商船大学設立促進連盟が組織され、政府、国会に対して強力な要望が開始

された。これを受けて兵庫県出身の全衆参議院議員は連盟理事として院内で活動された。中でも神戸市選出の首藤新八代議士は、大学設立に文字通り挺身しその決断と実行力によって自民党の党議を決定させ、吉田首相の了承を取り付け、各政党の協賛を受けて議員立法による大学設立の原動力となられた。

昭和二十七年五月この伝統の地深江に新制神戸商船大学が誕生したが、以後十数年にわたり国立大学は全国的に一校の増設も見なかつたことに照らして、この運動がいかに難事であり、偉大な成果であったかが理解される。本学関係者の熱意もさることながら、港都神戸に商船大学を持ちたいという地元兵庫県や神戸市の方々の理解と愛情は誠に有難く、永遠に本学の歴史に留めて、地域社会への貢献を誓つてゐる次第である。

大羽真治初代学長は、豊橋の出身で東京商船学校を卒業後、練習船大成丸官船長を経て東京高等商船学校教授となり、戦後海技専門学院長として神戸に赴任して來た生粋の商船教育者である。寡黙・誠実・信念の人で、創設期八年間の任期を通じて、広く学外より学者を招へし、大学の基礎を固めた。昭和三十五年勇退するや、大学に近い西宮に居を定め、朝早く学生寮の草花の手入れに通つこと十数年に及んでいた。また全国に先がけて神戸の地に海難防止の調査研究を専門とする協会を結成し、神戸港はもちろん西日本の航路整備や港湾建設に多大の貢献をしており、神戸において海や船を語るとき忘

れがつかまえるわけでしょ。それだから一生懸命ですね。

言葉で聞くより、もっとずっと一生懸命。それを私いま

になつてみてね、その一生懸命に探したことの、そのい

かに夢中になつたかという自分ね、むしろ懐しい（笑）

——でもいつのまにか地球じゅう征服したという感じで

その間にコレクターとしてはすごく発見があつたでしょ

田中 それは説明して教えてもらうんじやなく、自らい

じつてね、ハッと思うわけですね。だからその発見は

非常に印象的だしね。たとえば△穴▽なんてのね、切れ

のまん中にパソコンと穴があいてますでしょ。そしたらハ

ッと思ひますよね、なんでこんなところに穴があいてる

のかな？ ふつと見たらそれを上手にかぶつてる。なあ

んだ、ああなるんだ、穴なんて大したもんだな（笑）

そういう発見の方がよくて、説明してもらつて聞くこ

とのつまらなさなんです。それだから学校の講義でみん

な居眠りしますけど知らないと行ってみてごらんな

さい。居眠りなんかしてられますか（笑）だから非

常に感動することばかりで。今までやたらと感動して

困るんです。みなさま、なさらないのに一人でます

から（笑）私は大体日本で習つてなくて外国でやつてま

すから。もちろん語学も使ひますが、語学プラス自分の  
勘、ですね。触覚です。感動したり驚いたり、いい感覚  
の勉強になりましたね。あんまり言葉が上手すぎなかつ  
たことがある点ではよかつたと思つてます。そんなこと  
いつたら「あの人、英語がへタなくせに」なんて笑われ  
ますけどね（笑）そういう点もありますよ。なぜ？ つ  
て、いまのことはなんですか？ つて聞けるところにね。  
質問ということはとつてもいいことですね。私はそう思  
つてんの。大人生なんてそういうものなんじやないん  
ですか。いまはやたらテレビとか、みんな教えてもらひ  
すぎ。一年ぐらいテレビも新聞も全部ストップしちやつ  
たらおもしろいなと思うんだけど（笑）教えすぎですね。  
★好きな方を向いて生きてきました。

田中 あの分類がすごくおもしろいなと思って、△穴▽と

かね、これは非常に驚きの言葉ではないかと……。

田中 デザイナーが自分で作つていてることについ  
て、構造の頂点ですね、そういうものを見るところにな  
つちやうんで。これも偶然ボンとなつちやつたんで、  
分類するなんていろいろ考えたもんじや全然ありません  
どうやつて服を着たかって考へると、動物殺して、肉  
は食べて、あの毛皮をヒヨイと身体に掛けて——掛け  
ただけじやダメだから巻いて——風でもきいたら巻いただ  
けじや飛んじやいますでしょ。だからまん中に穴あけて。  
首通したらもう飛んでいきやしませんよね。もう自分の  
所有権でしょ。だから穴は大したもんですよ。私はあん  
まり理屈っぽくいのは嫌いな方だから、なんでもね。  
——その辺が女性的な、特有の……。

田中 理屈にはまつてものを見るとなんか自分で自分を  
狭めちやうようで……決められたくないんですね。奥  
様だけに決められたら私は生きられないし、学長さま、  
なんてつたら生きられません（笑）デザイナーだけつ  
いても生きられないですね。そういうものですね。  
好きな方、向いてつたらしいですね。

田中 でもそれで集まつたのが、よく見たら地球だつた：  
ええ集まつてみたらね、ちゃんと穴だつたりね  
(笑) マルだつたりね、なつてるんですね。そういう物  
理的な面と精神的な面とちゃんと集まつてますよね。  
——そういうのは非常に感動的ですね。でもやっぱり勇  
気がりますねえ。

田中 いりますよ。勇気がいる、確かに。それと熱意は。  
私なんかジス・イズ・パッセイションで、すつ飛んじやいま  
す（笑）アドベンチャードですね、小さなね、アドベンチ  
ャー。人生のアドベンチャーナンてそんなものでしょ。  
——そんなふうに地球の中で△着る▽つていうことをす  
うとお考へになつて、日本人の△着る▽つていうことをす  
うつてはどんなふうに？

田中 やつぱし島国だからね。着るものもひとつ文明  
としてあつちからもこつちからも急に入つてきました

ね。だけどそれがほんとうに、無差別っていうか、なんでもかんでもみんな入ったでしよう。それを選り分けもしないし、批判もないし、分類もしないし、もう無差別ですねえ。過剰ですねえ。いいことは結構なことなんですがねえ、ただあんまり早すぎちゃって、その中からいいものをとれるはずなのに、とりそ

こなつちゃって。とりそなうというか、まだそこまで自分でつかめない感じやないですか。そういうふうに洋服なんかでも思いますよ。洋服の歴史が浅くて、根本はどういうふうになつていたかということが浅くて、なんでも変わつてればおもしろいんですけど。

とくに、変わつたところから大人になつた人というのはその前を知らない

わけです。だからつながらないんですね。和服を着て、それから洋服が入つてきて、という歴史というものがありますでしよう。それがなくて途中から入つたわけだから、タマゴがね、鳥になるまではタマゴだつてヒヨコだったわけでしよう。そのうちヒヨコを見ないで急に鳥を見ちやつたから、だからタマゴが急に飛んでつたかと思うみたいで、喜んでいたみたいで、そういう式の洋服があるわけよ。私そういうの、滑稽なよ。滑稽っていうか、もうやめてもらいたいの。服がかわいそうですよ。

フォーク・コスチューム（民族衣裳）の見方というの

も、そういう、人間というもののね、身体もそれから心

も両方守つてですね、生きていくためには、みんなが工夫もし、苦しみもし、喜びもし、ときには神に祈つてね、したという、そういう歴史をもつてきただけですよね。



200人のモデル外国人と生徒たちが着る田中千代の民族衣裳が揃う庄巻の場面

それが全然わかつてないんですよ。タマゴに足がついて踊つてゐるみたいな（笑）そういう式の人がいるから困るんですねえ。

### ★神戸はいろんな国の生活がある街

——今度のこういうことをやりになつた、もともとのスタートは神戸だつたわけですね。神戸の港から出て行かれた。いま神戸については？

田中 私は神戸はあんまり好きじやなくなりましたね。昔の方が好きよ。外人の家なんかいっぱいあつて。そうしての人たちが、なにも特別なことしてゐるわけじやなくてね、生活してましたでしょ。私も外国から帰つてきたものだから、神戸に住みついての外人なんかと偶然知り合つちやつて。それで私、そういう人たちと遊んでた

んです。そういう神戸はとても楽しかつたですね。神戸つていうのは外国から來たものを店に並べて、それを見せてるところじやなくつて、そこにね、もう住みついて、それでいろんな国の生活が現にそこでされてる。私は神戸はそれが好きですよ。いまのようないろんなものが並んでるだけじや意味ないですよ。生活が、前はありましたね。港へ見送りに行つたりね、あの船のボーッツで音がつて、涙こぼして別れてみたりね。それからまた船が着いたりね。そういうなんか、神戸には別れもあつたし、歓迎もありましたし。昔から私は父を神戸で送り、それからまた父が帰り着き、そのたんびに私は泣いたり喜んだり……ずうつと小さい時からしてきた。ほんとうに小さい時からでございましたからねえ。だから外国へ行くとか、帰つてくるとかいうことはなんでもないことですね。ただ人が変わつただけで。父や母も、兄弟もそうだし。

——先生はやつぱり偉大なるアドベンチャーネ。

田中 それがやつぱり港でございましょう。

——神戸の港から出発したファッショナードベンチャードですね。

（芦屋・田中千代学園にて）



深江の浜に位置する神戸商船大学



小谷信市第二代学長



大羽真治初代学長

れることのできない人である。

小谷信市二代学長は岡山県の産で、神戸高等商船学校を卒業するや、直ちに学校に残り深江の学園の歴史と共に生きた人で、誠実そのものの性格を持ち、清水の高等商船学校に采軒の話があった際、自ら志願してこの地に残ったとの逸話がある。六年間の任期中学園の充実に心を配り、学園創設の五十周年記念事業を計画し、前々号で紹介した海事資料館の開設も行っている。学問的には船舶用補助機械の体系化を試み、後進学徒に多大の指針を与えたが、先年不帰の客となられた。大学におけるその追悼会の日には、いつ果てるとも知れない参列者が続々那人徳を偲んだのであった。

先年兵庫県文化賞を受けた平勇登名誉教授は第四代学長を務めた人で、この人無かりせばこの商船大学は生れなかつたであろうといわれる。若き日に大学設立運動の先兵の役を担い、東京にあって要路にその热情をもつて迫り、感服せしめた事は有名である。将来のエネルギー危機を予見して商船教育の百年にわたる歴史に転換を計つて原子動力学科の創設に踏み切り、統いて大学院を設置するなど、大学行政のベテランとして大学の発展に寄与した。

一期生として昭和二十七年に入学した百二十名の学生は、他大学より移つたもの、旧制高等学校および専門学校の卒業生が非常に多く、年令の差も大きかつたが、これらが新一年生として何事につけても、徹底的に討論しつつ制度や伝統を形成していくことにつとめた。これが今日の本学のユニークな学生カラーを作り出すこととなつた。現在は二〇〇名の学生入学定員となつてゐるが、いずれにしても今日までの卒業生の数は決して多いものではない。しかしこの卒業生は海と船のベテランとして神戸の地で育まれたところを生かし国際的な立場で働いているものも多い。

# ファンション・アドベンチャー

田中千代さんをたづねて



「いまでもやたらと感動して困るんです」と若々しい田中千代さん

「地球は着る」と名づけて、田中千代さん（75才）が留学生時代から世界65カ国を回り、出会い集めた民族衣裳三千点の中から選んだ二百点を、巻く、穴、輪、はおる、民族の島、接点、敬う、生活の知恵、飾ると分類して紹介し、衣服の原点と自作品を三部ショーコンセプトで、45年のデザイナー生活の集大成にまとめて、東京・大阪で発表。画家の鶴居玲さんも構成に加ったこのショーは、ほんものの凄さと人間の生命力あふれ、田中千代のライバーのエネルギーが若々しく胸を打つた。大阪のショーの前日にインタビュー……。

★穴は大したもんよ。

——おめでとうございます。45年だそうですけど、たくさん集まつたものですね。

田中 そうなのよ、三千点くらい。ここまできたらね、集めるというよりか、衣服の中に入間性があるんです。民族衣裳のおもしろいところはその中に入間性が入っているからよね。工夫があつたり、苦しみがあつたり。大変暑いところのね、それをいかにして自分の身体を守るかとかね。ほんとうに暑いとこつづいたら50度くらいありますでしょ。ねえ、だから我々が暑いなんでもんじやない。もう皮がむけちゃつて痛いんですけどね。そういうことがその中に見えるからおもしろくなつたんです。私は自分で旅行しますでしょ。そこまで自分で行って、そして言葉が大体通じませんからね。英語なんかできたつてなんにもなりませんから（笑）英語もフランス語もドイツ語もしゃべんないところへ行くわけですから（笑）もう自分の目と、自分の感覚がいちばん大事ですね。そ

# 5℃の風



本 店	神戸市生田区下山手通 2-31	TEL (078)331-1694
三 宮 店	神戸市生田区三宮町 3-15	TEL (078)331-2101
さんちか店	神戸市生田区三宮町 1-1	TEL (078)391-3539
西ドイツ本店	フランクフルト・アム・マイン・ザルツハウス 1 ゲーテハウス内	TEL (0611)208262-3



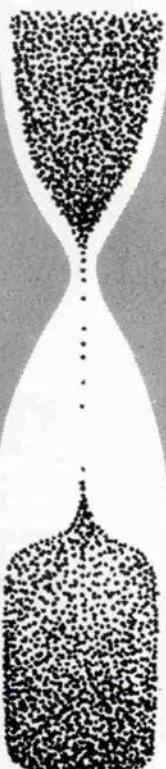
きもの工場

神戸	本部・仕入部	神戸市東灘区青木五丁目一五～九	電話〇七八一四五二一五二九〇(代)
本	店	神戸市生田区三宮町二丁目一～五	電話〇七八一三三二一五二九八(代)
さんちか	店	神戸市生田区三宮町一丁目一	電話〇七八一三三二一一七〇〇
銀座コア	店	東京都中央区銀座五丁目八一～〇	電話〇三一五七三一五二九八(代)
銀座メルサ	店	(四階きものコア)	
渋谷東急	店	東京都中央区銀座五丁目七一～二	電話〇三一五七四一八〇六五(直)
日本橋東急	店	(六階アスザン街)	
池袋バルコ	店	東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 (五階吳服販売場)	電話〇三一四七七一三四〇九(直)
(四階きもの小路)		(四階吳服販売場)	
東京都中央区	電話〇三一二一一〇五一一(代)		
東京都豊島区		(内線二九四)	
池袋			

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



# 期待されるKFSパワー

中原

武志

〈KFS会長  
神戸市総合福祉センター〉

米田

博司

〈KFS会員  
兵庫県商業貿易課〉

伊藤

邦生

〈KFS会員  
兵庫県商業貿易課〉

浦野

敏彦

〈ブティック・マル  
KFS会員〉

藤本

ハルミ

〈オートクチュール・マーガレット  
KFS会員〉

大西

節子

〈大丸神戸店ジバンシイサロン  
KFS会員〉

## ★五年目を迎えたKFS

——今日は、ファッショニズム市民大学の卒業生のグループKFS（コウベ・ファッショニズム・ソサエティ）の方々にお集りいただきました。まず、市民大学について……。

藤本 ファッショニズム市民大学は、他に神戸市がファッショニズムのためにやった業績よりも、一番つまびらかで有難かったです。自分たちは異質な部分でファッショニズムに関わっている人たちと知り合つたし、年齢とか職業とかに關係なく気安くつき合い、いろんな情報をうることができました。

KFSの方もできてから丸四年、今年で五年目になるのですが、先日、NHKテレビで、今、フランスの片田舎で絵を描いていらっしゃる三岸節子さんが、ご自分の経験から、会というものは五年で解散したらしいとおっしゃっていました。できたときはみんなも意欲に燃えて

いたらしい時期じゃないかと思っています。それでKFSも新規書き直しみたいな気持ちで、必ずあらわれたと。これは非常に有難かったです。ただ、マンネリ化はありますね。出で来る人は同じだし、やつている

が、五年も続くとある特定の人のための会になり勝ちだ。だから、五年周期で解散したらしいといつている

わけですね。それを聞いて、成程なあと思いました。五年目という難しい時期に差し掛るのではないかと思ったわけです。五年というのが一番難しいときだとしたら、初心に帰るというか、初めの成り立ちのときのようにフレッシュな気持ちにみんながなって、何か思い切ったことをやるとか、今、大事な時期に掛っていると思います。三年先には博覧会が控えていることだし、そこではファッショニズムが重要なポイントになると思いますから、この会に出たくなるという魅力あるメリットをつくるよう

にしたらしい時期じゃないかと思っています。米田 KFSの効果ということでは、いろんな友だちができたと。これは非常に有難かったです。ただ、マンネリ化はありますね。出で来る人は同じだし、やつている

こともマンネリだ。しかし、五年で解散ということには異論がありますね。違う形で続けるということを考えないといけないですね。ファッショニ市民大学ももう少しやり方を変えないといけないと思いますね。

芸術大学は必要だと最近思うようになりました。デザイナーというか、頭で勝負する人たちは大分いらっしゃるみたいですが、実際に手を使う、いわゆる、お針子さんとか、基礎の方々がものすごく少いんですね。十年先どうなるだろか。見習いに来る人がいないんですね。頭デッカチになつては困る。そういう意味で、技術を教える、生活が保証されて技術が習得できる学校をつくるないといけないです。うつかりしていたら、頭デッカチになりますよ。

**大西** 神戸市当局が芸術大学をつくつたり、そういうものに力を入れるのなら、まず、ファッショニ市民大学に力を入れて、そこを卒業し、社会に出たらひとつの権威があるということこれまで保証してくれる何かがない限り、だんだんと戻すほどになつて来るようですね。それと、基礎になる技術者の養成が本当に必要ですね。

**浦野** ファッショニ市民大学は勉強にはなりましたが、ある意味では、受け入れ側に余裕がありすぎて、サービス精神がありすぎますね。本当に勉強をしたい人間が行けばいいことであつて、無意味な人間が無理矢理行つて出ても何もないということですね。私は仕事でいつも東京へ行つてますけど、本当に叩き落とされるんですよね。何とか喰いつないで、すがりついてやつて行こうという活気がありますけどね。神戸にはそれがないんですね。気持ちのいい方はたくさんいらっしゃるんですが、何をするのか、何を考えているのか、ファッショニ市民大学に何を勉強しに行くのか。本当にやる気があるのかどうかですね。行つて、ただ帰るだけではあまりにも無駄な経費を使いすぎですね。もっと別な使い途があると思います。そういう人たちを毎シーズン送り出したって何の意味もないと思います。米田さんのおつしやつた縫われ

る方、ニットなら編まれる方を教えながら、いかにバランスをとつてやつて行くか。現実問題として考えること必要だと思います。ですから、やる気のある人間が行けばいいことであつて、たとえ受講生が三人でもいいと思つんですよ。

**伊藤** ファッショニ市民大学については市の方にもいろいろ構想があつたんでしようけれど、多分、消費者を育てて行くということで、クリエイティブな方、メーカー サイドでは決してなかつたと思います。長く続けることによって、文化とか芸術をつくり出すより先に、消費者をつくり出すということが大事だという意識に立てば、また、違う見方もできると思います。プロからみたらえらい先生の話ばかり聞いて退屈かも知れないが、アマチュアからみれば、また、いい点もある。ただ、技術者の問題とか、クリエイティブなものを育てて行くとなると、ちょっとどうしようもない。芸術大学も消費者教育の一環であると思います。だから、芸術大学をつくつたからすぐに何かが生まれて来るということはない。

**中原** ファッショニ市民大学は終つた方がいいのじやないかなという気がします。最初は、オーナーの人や第一線に立つている人が割と多勢来られて、K F S S がてきてそれによって卒業して終つてしまつだけなく、あとあと交流できた。ところが、最近のファッショニ市民大学へ来る人は会社から金を出してもらって、おまけに残業手当でまでもらつて来ている。さつき浦野さんから三人でもいきやならないから来ているという感じですね。だから、出席率はいいけれど、終つてからの有意義なつながりも少なくなつて来ている。さつき浦野さんから三人でもいいじゃないかという話があつたが、自分の意志で金を出して、行けば何か得るところがあるのじやないかという人より、会社からいわれているから行かなきやならないという考え方の人が多いわけね。そういう人がたくさん集まるようなものであれば、いっそやめてしまった方がいいのじやないかと思いますね。職人をつくる学校であ



伊藤邦生さん



米田博司さん



中原武志さん

A black and white portrait of Mita Toshiro, a man with dark hair and a light-colored shirt, looking slightly to the left. He is wearing a light-colored, possibly beige, zip-up jacket. The background is slightly blurred, showing an indoor setting.

中原 ただ、受講生に金を出して行かせている企業側にファッショニン市民大学で即企業の役に立つことを教えて欲しいという要望が強いらしいですね。

藤本 それは、間違っていますよ。

大西 藤本先生の意見に賛成で、なくしてしまるのは淋しいですね。

藤本 また、出てからの資格というのも要らないと思います。講義の回数にしてもしれていますしね。

中原 しかし、企業が金を出しているだけに発言力が強くなっているのは確かだと思いますね。そのあたりに問題がありますね。

藤本 そのへん、KFSがしっかりと発言したらどうですか。

伊藤 ファッショニン市民大学は、啓蒙的なものだつたらもう役目は済んでいると思います。ファッショニンが、クラブトというか、職人的なものにロッドも小さくなつてゐるし、技術的、職人的になりつつあるし、摸索期が来たなという気がしますね。

アツ」と思う人があると思う。私は行く人間がある限りやつたらいいと思う。それが、ファッショングループのない主婦でも、来る人がある限り続けてやると、オートクチュールをやっていた私が、産業の仕組に開眼したみたいに、何かに触発されて、それから考える人が出て来ると、思います。専門教育をするのは別の分野で考えたらしいし、ファッショングループ市民大学のようなものはあつてもいいと思ひます。

★ 福祉にもクリエイターが必要  
米田 福祉にもクリエイターが必要ですね。今までの福祉ではダメ。それにプラス何か。クリエイターが必要です。その意味ではファッショント同じですね。

今、KFSの技術者に動いてもらつて、身体障害者の衣服の改造をこれからやろうと思っています。今までにもいろんなところで試みられてはいますが、量産ができます。

さんのデータをとつて、最大公約数的なもので数字を出して、それによって量産をする。

中原 後援はKFSになっています。

浦野 神戸に共通の夢を売る、まあ、一人のデザイナーでもいいですが、そういう人がいるか、といえば、いないですね。身障者の方も、そうでない方も、みんな一緒に見られる、感じられる夢を売るクリエイターを育てることは本筋だと思いますね。

神戸の方はもの分りが良すぎると思つうんです。反対がないんですよ。仲が良いのはいいんですけど、反対のあるところから、これまでにないものができると思うんです

が。みなさんが闘いながら、力を貸すなり、また、違う所、東京や、パリ、ニューヨークへ行こうといいんです。もつとそれぞれが行動的になって、個人が燃えて、そのかたまりがまたもうひとつ燃えるということがないと、何かもの分りがいいといいますか、首をタテに振つたり、ニコッと笑つたり、「そうですね」という返事ばかりですね。そこから一体何が生まれるか。ちょっと難しいと思ひますね。納得できないのならできないということで、じや、どうするんだといつたら、こうしますという行動で、デザイナーなら何かで表わすということですね。

藤本 ファッションマンスリーの期間でも、格好のいい

ものを大きな会場でやるだけではなくて、その期間にお饅頭をつくる職人さんはこれまでにつくつたことのないものに挑戦してみたりする。個々のクリエイターはつくることでしか世間に発表することができないわけでしょう。そういうものを集めることが必要ですね。それで他の町にアピールし、売れたら、見返りは市民にもありますし

ね。

大西 私の仕事はパリのオートクチュールのジバンシイと提携してやっていますから、あれイコール神戸につしかわれて来た洋服とともにと肌で感じて、神戸でしかできないという洋服をつくつて行きたいですね。大阪や京都や東京から神戸に帰つて来ると、ここにファッ



大西節子さん



藤本ハルミさん



浦野敏彦さん

ないので、商業ベースにはのらないで失敗しています。たとえば、道路とか住居とかについては相当手がつけられているのですが、常日頃、一番身近かであるものに對しては殆んどの人が我慢しているという感じですね。それを行政面で何とか出来ないものかということで、や

つと、今年、わざかですが予算がつきました。これはK

F Sが主体となってやる事業ということです。たとえば、一番よく目立つのはクルマ椅子ですが、そういう人たちのズボン。普通のズボンだとトイレに行ったときどうやってやるのかということですね。そういう人たちのたく



ショーンがあるんだなあという気がするんですけどね。

神戸に行けば小さいけれど本物の服をつくってくれる  
服屋がある。靴屋がある、そういうものの集団が欲しい。

### ★先見の明のある人材が必要

——昭和五十六年にポートアイランドがオープンします  
が、最後にボートアイランドについてご発言をお願いします。

中原 コンテンヤードに囲まれたファッショング街区がどうなるかという危惧があつて、ファッショング街区として楽しめるかどうかにはあまり期待できない。ただ、非常に期待しますし、実現して欲しいと思うのは卸売機構。神戸には卸売のシステムが全然ないので、神戸のファッショング産業をいくらか阻害しているのじやないかと思います。卸売機能を大巾に備えた何かをつくって欲しい。それは大企業のためばかりでなく、これから伸びて行く企業にも何か手助けとなるようなものであつて欲しいし、また安くて使える会場があつて、神戸の新しいデザイナーがどんどんどんどんそこを利用して発表して行ける、そういう機能を備えたところと卸売機構ができれば、今までの神戸にないものだけに期待したいですね。

浦野 今は感覚的には世界に時差もありませんし、情報も発達していますので、そういう社会の流れを的確にとらえて、神戸の感覚で処理するのならないと思いますが、ただ単に神戸の人が神戸の感覚だけで終つてしまつたらもつたまないと私は思います。もっと広い意味で才能のある人間を探る。そうすれば、ポートアイランドであろうと博覧会であろうと、何か答えは出ると思いますね。何年か先を見て考え、提案する人が必要だと思います。

伊藤 ハードな面でちょっと夢をいわせていただければあのガントリクレーンと貨物自動車に負けんのをつくらないとしないと思いますね。三つぐらい頭の中にあります。ですが、ひとつは大きなショッピングセンター。神戸では今までショッピングが強かつたので、あそこには日本では他にはどこにもないという規模の大きな面白い

ショッピングセンターをつくる。もうひとつは、コロシアム。闘牛は実際にはできなくとも、それぐらいの規模のものをつくる。中では何でもできますね。もうひとつはこれはちょっとといいにくらいんですけど、県庁は兵庫県の真中の田舎へ移転してしまい、神戸市役所も思い切つてポートアイランドへ移転する。その跡地が芸術大学とか劇場に新しく生まれ変わる可能性があります。

米田 さつき中原さんがいわれた卸売機能ですが、神戸の場合は、果して必要かどうか疑問をもつてゐるわけです。卸売とはたくさんもつて来て、たくさん売るわけでしょう。神戸では、そういうことをした方がいいのかどうかということですね。僕は、しない方がいいという考えなんですよ、神戸らしいもので行くのなら。ある意味では消極的ですが、それが一番いいと思っているわけですよ。西北神に工場団地をつくって、そこに建てたらいじやないかという話もありますが、それだつたら交通の便も考えないといけないし、いろんなことを考えたら、神戸は規模は現状のまま、そして、中味をよくして行く。そうすると卸売機構も要らない。そのかわり、市役所がポートアイランドへ行く。その跡へ大学なり、文化を育てるものをつくって欲しいですね。

藤本 商店街みたいではない、たとえば、イスキア島ですか、地中海の中にある島で、島の岩場とか全部が利用されて個々に非常にモダンなお店が建つてゐる。島全体がショッピングの町になつてゐるという、そういうものができるいかと思いますね。

これからポートアイランドがつくられるのなら未来都市がつくられるようにして欲しい。便利さや商売のことばかり考えないでね。

大西 神戸の人がノスタルジイにひたるというのではないですが、そういう人間性の回復できる町づくりを、セントラル街、三宮、元町、山の手にしてもらつて、ポートアイランドには伊藤さんのおつしやつたような機能的な町づくりをやって欲しいですね。

### 田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作  
神戸市葺合区旗塚通6-3-10  
TEL (078) 231-3321

### オールスタイル株

取締役社長 川上 勉  
神戸市生田区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

### カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡必三  
神戸市生田区三宮町1丁目17-4  
センターープラザ東館8F  
TEL (078) 392-2101

### ㈱ベニヤ

取締役社長 松谷富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
TEL (078) 332-3155

### モロゾフ株

取締役社長 萩野友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

### 入船株

取締役社長 小泉進吉  
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19  
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル3F  
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の企画は以上6社の提供によるものです。

だけに今後とも健康に気をつけて頑張って欲しいもの  
なお8月21・22・23日の3日間は20周年を記念して食の感謝の宵ということで食

館で「ビノ・セニヨリータ・イ・フラメンコ△エル・ヴィノ5周年の集い▽」が開かれる。「5周年といつても特別に

ら新しく打楽器奏者と美人ギター奏者のコンビがプラジルより来店の予定。  
□お問い合わせは  
332-16694まで

い飲みものを楽しめる。  
なお、席数が限られて  
いるので予約をしておく  
と安心。9月中旬まで。